厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
小児がん拠点病院等及び成人診療科との連携による
長期フォローアップ体制の構築のための研究
分担研究報告書

「クリニックにおける長期フォローアップ体制の構築」

研究分担者　寺田和樹・いなげ未来クリニック・院長

研究要旨

小児がん経験者の適切な長期フォローアップのためには利便性が求められる。本邦ではクリニックにおける長期フォローアップ体制の確立が望ましい。

クリニック受診理由では小児がん経験者およびそのご家族の社会的事情(通学、職場復帰)による治療病院への通院頻度減少や復学支援、発達相談など心理社会的支援が中心だった。治療病院であればフォローアップロスし兼ねない症例のフォローアップ継続の一助となっている可能性が示唆された。一方、経営面、連携面での課題も多く、今後更なる体制作りが必要と考えられた。

A. 研究目的

小児がんは治療終了後にも身体的、心理社会的な合併症で悩まされることが明らかとなり、小児がん経験者(Childhood Cancer Survivor: CCS)に対する適切な支援が求められる。

しかし、治療病院における外来診療は再発の有無などの身体的合併症に重点が置かれ、心理社会的な問題への対応は困難であることが多く、限られた診療時間内では CCS が悩みを打ち明けられずに診療が終了してしまうことも多い。

また、通院のために授業や仕事を休まなければならないこと、通院に時間を要すなど利便性の面から治療病院への通院自体が途切れることがあり、適切な支援を継続することは難しい。成人期を迎えた CCS を対象としたアンケートでは、近隣のクリニックで長期フォローアップを求める声も多く、クリニックにおける長期フォローアップの需要は高まっている。

我々は 2023 年 1 月に長期フォローアップ外来を実施する小児科クリニックを開院しクリニックでの長期フォローアップ体制の構築を目的とした。

B. 研究方法

いなげ未来クリニックの長期フォローアップ外来を受診した小児がん経験者に対し、クリニック受診理由を診療録から後方視的に解析した。

また、長期フォローアップ外来運営に対する課題を抽出した。

C. 研究結果

外来の受診理由としては治療病院への通院頻度を減少させるためが 8 例、心理社会的支援のためが 5 例、こども病院からの移行が 4 例、晩期合併症に対する定期処方のためが 1 例であった。

治療病院への通院頻度を減少させる理由は高校生、大学生 CCS からの需要や親が仕事復帰のため土曜日受診希望といった理由が挙げられた。心理社会的支援については小学生の親、中学生 CCS からの需要がみられた。

長期フォローアップ外来運営に関しては、時間当たりの診療報酬が低いことやスタッフ確保の問題など経営面の問題、各種画像検査、内視鏡等は小児科クリニックでは困難であるという施設面の問題、クリニックのみでの長期フォローアップの完結は難しく、高次医療機関との連携面での問題が挙げられた。

D. 考察

外来受診理由としては CCS およびそのご家族の社会的事情（通学、職場復帰）による通院頻度減少や復学支援、発達相談などの心理社会的支援が中心だった。

治療病院であればフォローアップロスし兼ねない症例のフォローアップ継続の一助となっている可能性も示唆された。

経営面の課題に関しては、診療報酬の増加は患者の医療費負担に繋がりフォローアップロスを招く一因となる点が悩ましい。長期フォローアップ外来スタッフの確保も経営的に難しい一面がある。

E. 結論

クリニックによる長期フォローアップによりフォローアップ率を高める可能性が示唆された。

一方、経営面、連携面での課題も多く、今後更なる体制作りが必要と考えられた。

F. 健康危険情報

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G. 研究発表

１． 論文発表

２． 学会発表

2023 年　小児血液がん学会

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし